

Heartful Day

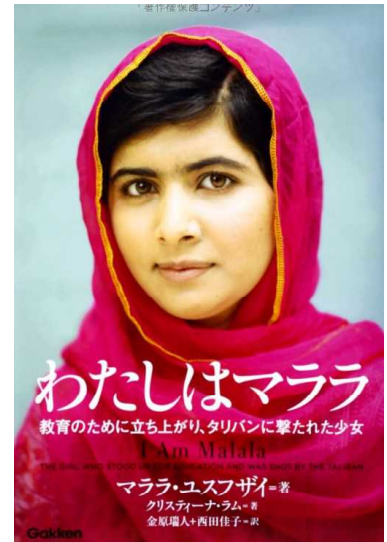
北条高校人権委員会
平成26年7月16日
No. 82

マララ・デーを知っていますか

タリバンに撃たれた少女

みなさんは、マララ・ユスフザイという右の写真の少女を知っていますか。2012年10月9日、通っていた中学校から帰宅するためスクールバスに乗っていたところをタリバンという武装勢力の男たちから頭部と首に計2発の銃弾を受け、一緒にいた2人の女子生徒と共に負傷した女の子です。

マララさんは11歳のころからブログや海外のメディアで、女の子だからという理由で差別を受け学校に行かれないというようなことはあってはならない、というメッセージを世界に発信してきました。彼女のお父さんもタリバンの弾圧を受けながら地元で学校を運営してきた教育者です。パキスタン北部でマララさんが暮らす地域に女の子への教育を禁止するタリバンの布告が出て、学校が閉鎖に追い込まれても一貫してマララさんは、お父さんと一緒に「すべての子どもたちに教育を、女の子も差別されることなく学校に通う権利がある」と女の子への教育の権利を訴え続けました。そうしたマララさんの影響力をタリバンは嫌い、マララさんの声を封じてしまおうとして狙い撃ちしたのです。



マララ・デーとは

事件直後、マララさんはイギリスに搬送され、子どもの治療を専門に行う病院で手術を受け、2013年2月に退院、4月からイギリスの女子校に通うまでに回復しました。タリバンは、マララさんへの襲撃はこれからも続けると警告していましたが、マララさんは屈することなく女の子が教育を受ける権利を訴え続けています。

7月12日は、マララさんの誕生日です。2013年、国連はマララさんの取り組みや銃撃後の不屈の精神をたたえて、この日(7月12日)を「マララ・デー」と名付けました。同日、マララさん自身がNY国連総会会議場で演説し、事務総長に女の子への教育の権利を訴える提言を手渡すことにしたのです。



女の子の教育の現状は…

世界では今も、5700万の子どもが学校に行っていない。そのうちの3200万が女の子とされています。多くの子どもが学校に行けない状況にあること自体問題ですが、女性の割合が高いことは大人になっても同じことで、読み書きができない大人は7億6000万人。その3分の2は女性です。



国連での演説

マララさんは演説のなかで、「私たちはすべての子どもたちの明るい未来のために、学校と教育を求めます。私たちは、「平和」と「すべての人に教育を」という目的地に到達するための旅を続けます。(中略)自分たちの言葉の力を、強さを信じましょう。私たちの言葉は世界を変えられるのです」と、さらに「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。エデュケーション・ファースト(教育を第一に)」と教育の大切さを訴えました。



マララさんから学ぶもの

マララさんは、自分を撃ったタリバン兵を憎んでいないと言いました。そのことに私は、大変驚きました。それを、マララさんは、ムハンマドやブツタから学んだ「慈悲の心」であり、父と母から学んだ「許しの心」だと言いました。続けて、「穏やかでいなさい、すべての人を愛しなさい」と言っていますが、私には正直難しいです。そういうところでも、マララさんは、「すごいなあ」と思います。

言葉は、人に希望や勇気を与えます。しかし、同時に人を傷つけ、時には命をも奪いかねません。マララさんは、言葉で世界を変えることができると言っています。私たちも、今日から意識して、愛や希望・勇気を与える言葉を使っていきたいものですね。

次回の放送は、9月17日です。お楽しみに…

お願い

今日の放送を聞いて生徒の皆さんの感想や、この資料をご家庭に持ち帰ってご家族の方と話し合ったこと、ご感想などをお寄せください。

提出は、ホームルーム担任まで

----- 切り取り線 -----

第3回ハートフルデー

()年次 生徒 or 保護者